



小西由香里 Yukari Konishi

株式会社ダイヤモンド・ビッグ社 『地球の歩き方』編集部 (2001年3月文学部卒業)

自分の作った本を読んでもくれる人がいる。それが私のエネルギー源です。

—今の職業を選んだきっかけは？

大学ではドイツ語を専攻し、3年生で初めてドイツを旅行しました。その時に『地球の歩き方』を持って行ったんです。もともと何か形に残る仕事をしたいと考えていましたし、大好きな旅行という分野でこんな本を作れたらいいなと思ったのが入社のかきかけです。

—どんな仕事を担当していますか？

プロデューサーとしてドイツをはじめ中央ヨーロッパ地域のガイドブック制作を担当。1冊の本を作るためには様々な人が関わっているので、そのメンバーをまとめ、作業の進行管理をするのが主な仕事です。例えば、海外取材の手配をしたり、上がってきた文章をチェック・指示したり。

読者にその地域の魅力をどれだけリアルに伝えることが

できるかをテーマに、常に旅行者の視線を忘れないよう心がけながら編集を行っています。海外旅行のガイドブックを作る仕事は一見楽しそうに見えますが、実はデスクワーク中心の地味な仕事です。でも、自分の担当した本が本屋に並んでいるのを見るとやり甲斐を感じますね。



—学生時代にやっておいて良かったこと、逆にやり残したと思うことは？

実際に役に立っているのは英語かな。TOEICや英語検定試験には必ず申し込んで、勉強せざるを得ない環境を作っていましたね。学生時代にやっておけば良かったと思うのは、新聞を毎日読む習慣を身につけておくこと。海外出張の際には、現地の人たちと日本の経済や社会の話をする機会も多いのですが、外国人のほうが日本のことを詳しく知っていたりして慌ててしまうこともしばしば。新聞を読んでいるかいないかで、会話の幅が本当に違ってくるんです。いくら語学力があっても、肝心の話題がつかない意味がないですからね。

—後輩たちへメッセージをお願いします。

自分の意志でやり遂げた!と自信を持って言えることを一つでもいいので見つけてください。サークル・語学・旅行、何だっていいと思います。その自信がきっと、今後のステップアップにつながるはず。それから、とにかくいろいろな人と会って話をする。特に目上の人との会話を通して学べることは多いと思います。西条はとて素晴らしいところでも大好きな場所ですが、たまには一歩外に踏み出してみるのも面白いですよ。



社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身に付けておくべきこと、はたまたプライベートの話まで、私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤

OB&OG紹介



山下祥弘 Yoshihiro Yamashita

三菱重工業株式会社広島製作所 資材部機械調達・物流グループ (1999年3月法学部卒業)

社会の常識を身に付けるために、勉強だけではなく、様々な経験をしてほしい。

—現在担当している仕事は？

また、今までの仕事で印象に残っていることは？

現在は港湾にあるクレーンなどの物流機器に使う部品の調達を担当しています。1,000円程度のものから数億円



単位のものまで、とにかく幅広い物品を扱っています。

やはり苦労した時のことは印象に残っていますね。調達の仕事でいうと、発注した後にお客様から別のメーカーに変えてほしいと言われたことかな。既に発注した会社には怒られるし、新たに

発注するメーカーは納期が間に合わない上に値段も高い。どうしようかと思いましたが、あとは、製鉄機械のプラント輸出の営業をしていた時のこと。当時担当していたプロジェクトの関係で海外のお客様のところへ20回ほど出張したのですが、打ち合わせをしているとそのお客様がだんだん熱くなってしまい、ファイルを投げつけられたり…なんて経験も。国民性の違いを改めて感じました。

—どんな広大生でしたか？

中学生の頃から海外で働くことが夢だったので、大学時代は海外旅行へ行くお金をためるためにバイトばかりしていました。3年時と卒業前に2度、ヨーロッパを訪問しました。

海外で仕事をしたいと思っていたわりには、あまり英語の勉強はしませんでしたね。私の場合、就職後に必要に駆られて自然と英語力が身に付いたという感じ。営業時代は頻りに海外出張がありましたし、現在の部署でも半年に1回のペースで外国へ行く機会があります。英語が使えないと仕事にならない、そういう危機意識が常にあったから。でも、大学生のうちをしっかり英語を学んでおけば良かったと痛感しています。

—最近の大学生についてどう思いますか？

社会人になって学生と一番違うと感じたのが大人としての「責任」の重さです。例え入社2~3年の若手社員でも、自分に任された仕事に対しては責任を持たなければなりません。最近、採用活動で大学生と接する機会がありますが、自分のことしか考えていない子どもっぽい学生が多いように感じます。時間にゆとりがある学生時代。もちろん勉強も大事ですが、アルバイトやいろいろな人との出会いを通して、社会の常識というものを自分の肌で感じ、学んでいくことが重要だと思います。



取材を終えて



学生たちの憧れの就職先である出版社へ勤務されている小西さん。しかし現実は華やかな仕事ばかりではないようです。それでも私には、本当にやりたいこと、好きなことを職業にしている先輩の姿はとて輝いて見えました。休みの日も趣味や勉強に明け暮れ、のんびり過ごす時間はほとんどないとか、次々と飛び出す刺激的なお話、つい取材を忘れて聞き入ってしまいました。普段大学に通っているだけでは分からなかった「社会」に触れることができ、本当に勉強になりました。取材・記事 / 法学部3年 新本 恭子



印象的だったのは山下さんの魅力的な人柄とそのポジティブな考え方。少し緊張気味の私に対して、やさしく落ち着いた態度で接して下さる姿に「大人のゆとり」を感じました。これまで仕事上の失敗も数多くあったそうですが、それを乗り越えるために「やるだけやれば結果は後でついてくる」と、常に前向きな姿勢で仕事に取り組んでいらっしゃるようです。すてきな社会人の先輩と直接お話ができた今回の取材。貴重な体験になりました。取材・記事 / 経済学部4年 梅田 佳宏